

茨城大学学報

第332号

平成29年4月～平成29年5月



水戸キャンパスの桜

INDEX

- ◆ 人文社会科学部を新設 学部棟に看板を上掲
- ◆ 平成29年度入学式
- ◆ 新入生向けイベント「コミットメント・セレモニー」はじめて開催
- ◆ 図書館に高さ3メートルの「ディプロマの壁」
- ◆ 「プレ金トークラウンジ」で学内コミュニケーション促す
- ◆ 教育学部学生が還付金詐欺の被害を食い止め警察から感謝状授与
- ◆ 財務課職員の大内さんが中国語スピーチの国際大会に出場
- ◆ 平成30年度工学部・大学院理工学研究科の改組に向けた会見を実施
- ◆ 茨城大も講座提供等で協力 「いばらき農業アカデミー」開講
- ◆ 学生による学外活動の発表イベント「はばたく！茨大生」を開催
- ◆ 茨城大学地球変動適応科学研究機関（ICAS）が国文学研究資料館と協定締結
- ◆ 茨城大学名誉教授称号授与式・懇談会を開催

茨城大学広報室

TEL 029-228-8008

FAX 029-228-8019

◆ 人文社会科学部を新設 学部棟に看板を上掲

本学では、平成 29 年 4 月に人文社会科学部を新設するとともに、大学院人文科学研究科を人文社会科学研究科へと名称変更しました。入学式を翌日に控えた 4 月 5 日（水）、三村信男学長や佐川泰弘学部長の立会いのもと、学部棟に新学部・研究科名の看板を設置しました。

人文社会科学部の前身となる本学の人文学部は、今からちょうど 50 年前の昭和 42（1967）年、当時の文理学部を人文学部・理学部・教養部へと改組する形で開設され、これまで約 16,000 人が卒業しました。

今回の人文社会科学部への改組にあたっては、従来の人文コミュニケーション学科と社会科学の 2 学科編成から、現代社会学科・法律経済学科・人間文化学科の 3 学科編成へと変え、各学科で何を学ぶのかがより鮮明に示されることになりました。同時に、メジャー（主専攻）とともに、他分野のサブメジャー（副専攻）プログラムも履修することが卒業要件に加わり、文系総合学部の側面を生かしながら、ひとつの専門分野にとらわれない幅広い視野・能力をもった人材の育成が図られます。

また、人文社会科学部の設置にあわせて、大学院人文科学研究科も人文社会科学研究科と名称を変更し、社会科学専攻に地域政策研究（社会人）コースを新設しました。同コースでは、4 月から県内 5 市町の自治体職員が大学院生として学びます。

佐川学部長は、「『地域教育力を身につけよう』をスローガンに、学生たちが地域で活動し、包括的な視点で課題に取り組むことを授業に取り込んだ。狭い専門性だけでなく、プラスアルファの視野や実践力を身につけた、ひと味違った学生を社会に送り出したい」と語っています。



看板上掲の様子 右から 2 番目が三村学長、同 3 番目が佐川学部長

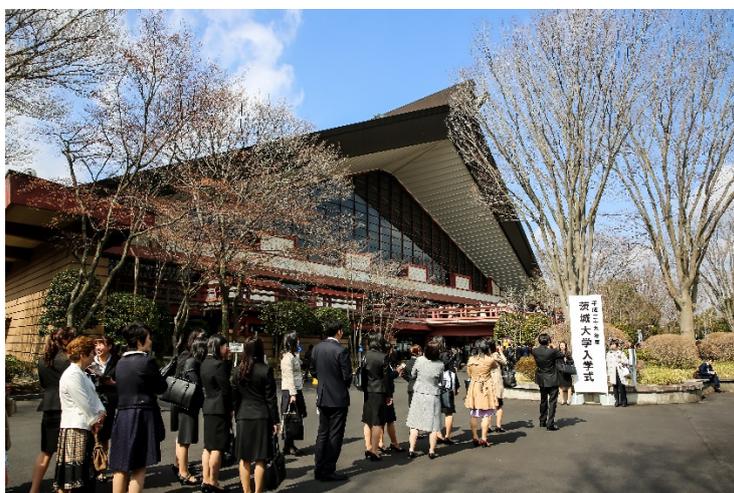


看板上掲にあわせて実施された記者懇談会にて

◆ 平成 29 年度入学式

平成 29 年度茨城大学入学式が 4 月 6 日（木）、茨城県武道館（学部・専攻科）および茨城大学講堂（大学院）において、大勢の保護者および学内関係者らの参列の中、挙行されました。

式は、国歌吹奏、各学部等総代の誓書提出にはじまり、学長式辞、来賓祝辞、役員・学部長等の紹介と続き、入学生代表宣誓（工学部・木村皓太さん、教育学研究科・大賀洋希さん）より宣誓がありました。最後に参列者全員による校歌斉唱で閉式となりました。学部・大学院・専攻科を併せて 2,193 人の新入生が、それぞれの夢や目標に向かって新たな一歩を踏み出しました。



<平成 29 年度入学式（学部・専攻科）学長式辞>

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

茨城大学を代表して、皆さんを心から歓迎致します。また、ご家族、関係者の皆様も、さぞお喜びのことと思ひ、お祝いを申し上げます。水戸の桜も今週咲き始めました。まさに春本番のこの美しい季節に、1,673 名の新入生を迎えることができ、大変うれしく思っています。



さて、新入生の皆さんは、茨城大学での学生生活に対して、大きな期待を持っていることでしょう。そこで、大学とはどういうところか、また、茨城大学ではどのような教育を目指しているのかについてお話ししたいと思います。

大学や大学院を卒業すると、皆さんは社会に飛び立ちます。つまり、大学は、教育の最終段階であり、社会に飛び立つ準備をするところです。人類は長く学問と科学技術の研究成果を積み重ねてきました。大学は、これらの成果を皆さんに伝える場所です。それと同時に、時代の変化に合わせた新しい教育も必要だと考えています。

私達が生きているこの 21 世紀は、かつてなく変化の激しい時代です。例えば、グローバル化によって世界はますます一つにつながっています。私も、成田空港から度々海外に出かけましたが、海外出張に出発する卒業生に何度も会いました。このように、今や国境を越えた経済活動や競争が当たり前になっています。また、科学技術もすさまじい勢いで進んでいます。人工知能や車の自動運転、ロボットの活躍のように、実現にはまだ 10 年も 20 年もかかると言われていたことが、もう現実になっています。数年もすれば、車はハンドルから手を離して運転し、人工知能が病気の診断を行うなど、世界の姿は一変しているかも知れません。

こうした世界で生きていくのにどのような力が必要でしょうか。この間に応えるため、本学では、現代にふさわしい新しい教育を準備してきました。私は、皆さんに、本学での 4 年間で、こうした変化の激しい社会の未来を切り拓いていけるたくましい茨城大学生に成長して欲しいと考えています。そのため、今年、教育の改革が本格的にスタートします。人文学部は新しく人文社会科学部に生まれ変わります。また、教育学部と農学部でも、学科や課程の構成が大きく変わります。皆さんは、いわば、「新しい茨城大学」に入学する第 1 期生です。



こうした新しい教育の目標として、ディプロマ・ポリシーを定めました。ディプロマ・ポリシーとは、卒業までに到達すべき教育目標のことです。茨城大学のどの学部、大学院研究科に入学しても、身につけるべき5つの能力を定めたものです。その5つの能力とは、第一が、世界の俯瞰的理解（自分の中に世界の見取り図を作るということです）、第二が、専

門分野の知識とスキル、第三は、課題解決力・コミュニケーション力、第四は、社会に貢献しようという姿勢、そして、第五が、地域活性化に向けた志向です。

これらの目標を実現する上で、学生一人一人が能動的に学ぶことが柱になっており、そのために、教室だけでなく地域や海外をキャンパスにして教育を展開します。本学では、こうした、実際の問題の現場に出て行く機会が、沢山準備されています。皆さんの中には、グローバルな活躍を目指す人も多いでしょう。昨年は、多くの学生が海外研修や留学に出かけました。カケハシプロジェクトでアメリカに出かけたり、上海スタディツアーといった取り組みが活発に行われています。また、新入生に必修の「茨城学」という講義もあります。この講義では、本学の教員と地元の自治体や企業で活躍する講師が、私達を取り巻く地域社会の生きた課題を紹介します。その後で、皆さんとの議論も計画されています。また、多くの講義を学生の参加型に転換しています。これは、アクティブラーニングと言いますが、事前にテーマを調べてきたり、教室で学生同士が議論したりする機会が格段に増えるはずですが、こうした改革の内容は、皆さんに配布された「茨城大学コミットメント」というパンフレットに示されています。コミットメントとは「関わり合い」や「約束」という意味です。この入学式の後にコミットメント・セレモニーを行い、その中で、皆さんが4年間をどう過ごすか紹介することになっています。

大学が高校までと一番違うのは主体性の重視です。例えば、授業には選択科目が沢山あります。そのため、カリキュラムは自分で組み立てなければなりません。そうになると、空いた時間には、図書館のラーニング・コモンズなど自由に使えるスペースで、自分の勉強をすることになります。つまり、名実共に、大学生活の主人公は皆さん一人一人であり、生活時間の全てを自分で管理することになります。大人になるとは、セルフコントロールできる主体的な人間になるということですが、本学でその第一歩を踏み出して欲しいと思います。

また、大学には、正規のカリキュラムの他に「隠れたカリキュラム」と呼ばれるものもあります。これは、サークルやボランティア活動、あるいは、先生や友人との語り、読書、新聞を読むこと等ですが、こうした大学生活の全てが、自立した人間へと成長する機会になります。私は、皆さんが、正規のカリキュラムと隠れたカリキュラムの両方、つまり、茨城大学での全ての勉学と生活を通して、変化する21世紀を生き抜ける人間、さらに、よりよい社会を作るリーダーに成長することを心から期待しています。

今年は、26名の外国人留学生が入学しました。中には、まだ英語の方が分かり易いという人もいますので、簡単に英語で歓迎の言葉を述べたいと思います。

There are 26 foreign students attending this ceremony. Therefore, I would like to offer congratulations to them in English. On behalf of Ibaraki University, I am extending my sincere welcome to you all. We are very much pleased to have foreign students as new members of our university in this beautiful season, April. We are promoting the reform of university education to meet the demands from the society, and have prepared many courses which you can find attractive and suitable for your study. You are the first students entering to the new Ibaraki University. I hope you can achieve the goals of your studies and enjoy the campus life here at Ibaraki University.

以上をもって入学式における式辞と致します。今日は、本当におめでとうございます。



2017年4月6日 茨城大学長三村信男

◆ 新入生向けイベント「コミットメント・セレモニー」はじめて開催

4月6日（木）、入学式閉式後の新たなイベントとして、「コミットメント・セレモニー」と題したステージイベントを初めて行い、プレゼンテーションとダンス・音楽のパフォーマンスにより新入生を迎えました。

本学では全学のディプロマ・ポリシーにおいて、「世界の俯瞰的理解」「専門分野の学力」「課題解決能力・コミュニケーション力」「社会人としての姿勢」「地域活性化志向」の5つの能力・姿勢を「茨城大学型基盤学力」と定めた上で、

平成29年度より、従来の教養教育にかわる基盤教育の開講、学生の能動的学習の重視、海外研修やインターンシップ等の学外での学修の促進などの教育システムの抜本的な改革をスタートさせ、「茨城大学コミットメント」と名づけました。

「茨城大学コミットメント」への招待というコンセプトで企画された「コミットメント・セレモニー」では、ディプロマ・ポリシーを記した約3メートルのパネルが舞台上に登場し、太田 寛行 理事・副学長（教育統括）と在学生が、新しい教育についてプレゼンテーションを行いました。また、ダンスサークル「踊りやさん」や吹奏楽団によるパフォーマンスも交え、華やかな雰囲気で行われました。参加した学生からは、「サークル活動も教育の一環と位置づけていると聞き、驚いた。先輩の話も聞き、グローバル教育のプログラムを受けたい」といった感想が聞かれました。



プレゼンテーションを行う太田副学長



ディプロマ・ポリシーを示したパネルを前に。
それぞれの目標を象徴する在学生も登場。

◆ 図書館に高さ3メートルの「ディプロマの壁」

水戸キャンパスの図書館に、本学のディプロマ・ポリシーを記した高さ約3メートル、幅約5メートルの壁がお目見えしました。「ディプロマの壁」として、学生たちのポリシーへの理解に役立てています。

壁は横に並んだ5枚のパネルを組み合わせたもので、それぞれのパネルには、本学が全学のディプロマ・ポリシーで茨城大学型基盤学力として定めた「世界の俯瞰的理解」「専門分野の学力」「課題解決能力・コミュニケーション力」「社会人としての姿勢」「地域活性化志向」の5つの能力・姿勢が書かれています。

これらのパネルは4月6日に新入生向けに実施したステージイベント用に作成したもののだが、ディプロマ・ポリシーへの学生の理解を促し、日々の学生生活と結びつけてもらうことを狙い、水戸キャンパスの中心に位置する図書館1階に移動し、設置することになりました。2ヶ月ほど展示をし、引き続きオープンキャンパスなどでも活用する予定です。



◆ 「プレ金トークラウンジ」で学内コミュニケーション促す

4月28日（金）、「プレ金トークラウンジ」と題した新しいトークイベントを水戸キャンパスで開催しました。

このイベントは、旬な話題について語れる同大教員や若手の研究者をゲストに、気楽な雰囲気の中でトークを行うもので、学内のコミュニケーションを促すことを目的に企画しました。午後3時に仕事を終えることを奨励する「プレミアムフライデー」に関して本学では制度的な対応はしていませんが、同イベントを月末の金曜日の夕方に開催し、教職員の参加を広く呼びかけることで、働き方改革への意識の向上も図りました。

第1回は、学術系クラウドファンディングで資金獲得に成功し、このほどその成果を学術雑誌に論文として発表した理学部の岡西 政典 助教をトークゲストとし、「クラウドファンディングで研究資金獲得ってどうですか？」というテーマで実施しました。冒頭でクラウドファンディングの動向や他大学の活用事例などを司会者が紹介しました。その後、岡西助教のプロジェクトを具体的に振り返りながら、実際に寄附を集める上で工夫した点などが語られました。

後半には、学術系クラウドファンディング「アカデミスト」の代表で創立者の柴藤 亮介さんもインターネット電話ツールを使ってトークに参加しました。柴藤さんは、資金獲得の成功事例の傾向や、一般的なクラウドファンディングと比較したメリットなどを紹介しました。

会場では参加者にコーヒーを提供し、約20人の教職員がリラックスしながらトークを楽しみました。岡西助教や柴藤さんには、「資金獲得だけでなく、研究コミュニケーションを活性化し、イノベーションを生み出すのにも有効」「人文系の研究の成功率はどの程度か」といった意見や質問が会場から寄せられ、終始和やかな雰囲気で行われました。

また、当日は本学のフェイスブックページを使って動画による中継も実施しました。そこでも多くの視聴が得られるなど、概ね好評でした。同イベントは今後も継続的に行う予定です。



◆ 教育学部学生が還付金詐欺の被害を食い止め警察から感謝状授与

本学の学生たちが、還付金詐欺の被害を食い止めたとして、水戸警察署から感謝状を授与されました。

感謝状を授与されたのは、いずれも教育学部の山本 麻友子さん（2年）、岡部 倫子さん（4年）、佐藤 航さん（4年）の3人です。山本さんたちは、今年の4月上旬、水戸キャンパス内において、女性が携帯電話で話をしながらATMを操作している場面に遭遇し、声をかけました。3人は電話を代わって相手と話したり、ATMのそばに掲示された偽電話詐欺防止を呼びかけるポスターを見て警察に電話したりするなどの対応をし、女性が被害に遭うことを防ぎました。女性は、市役所職員を装った男からの指示で現金を振り込むところだったということです。

5月1日、水戸警察署において感謝状の授与式があり、山本さんと岡部さんの2人が出席しました。感謝状を受け取った山本さんは、「電話をしながらATMを操作するのは変だと思い、声をかけた。女性が被害を受けずに済んだならよかった」と振り返りました。水戸警察署の森島 貞一 署長は、「偽電話詐欺の防止に向けて注意喚起をしているが、残念ながら同様の事件が県内でも多く起きている。みなさんのような正義感あふれる行動は本当にありがたい。不審な様子に気がついたとしても、普通はなかなか声かけできない」と学生たちに感謝の言葉を贈りました。



（左から）岡部倫子さんと山本麻友子さん

◆ 財務課職員の大内さんが中国語スピーチの国際大会に出場

財務課職員の大内一祥さんが、今年5月にタイ南部のハトヤイで行われる中国語スピーチの国際大会に、日本代表として出場することになりました。

大内さんが出場するのは、「華夏風情」という名前の中国語スピーチ国際コンテストで、母語も含むさまざまな言語のスピーチ教育の活動を世界各国で展開している「トーストマスターズクラブ」が主催するものです。

大内さんは、本学職員として「中国人の学生を支援したい」という思いから、4年前より本格的に中国語の学習を始め、昨年10月に「水戸トーストマスターズクラブ」に入会しました。これまで日中友好協会主催の中国語スピーチコンテストの茨城県大会で3年連続優勝し、2015年には全国大会にも出場するなど、着実に成果をあげています。今回の国際コンテスト出場にあたっては、トーストマスターズクラブの中国語部門の全国大会で大内さんが優勝したことで、唯一の日本代表に選出されました。

出場を前に、袖山 禎之 理事・事務局長、渡邊 一幸 財務部長、山本 健司 財務課長の出席のもと、壮行を兼ねて懇談会を行いました。袖山局長は「留学生を支援したいという動機もさながら、そこから努力と研鑽を重ねてきたことがすばらしい。コンテストに参加する他の国の人たちとも積極的に交流し、ぜひ茨城大学のこともアピールしてほしい。良い結果報告を期待している」とエールを贈りました。

大内さんは、「毎回全員に発言の機会があるという緊張感をもちつつ、メンバー同士で評価しあって楽しく切磋琢磨しながら続けてきて、こうして国際コンテストに出場できるまでに至ったことが嬉しい。今後こうしたスピーチ教育の活動が大学の中でも広がれば」と語っています。



(左から) 渡邊部長、袖山理事、
大内さん、山本課長



発表の様子

◆ 平成 30 年度工学部・大学院理工学研究科の改組に向けた会見を実施

茨城大学はこのたび、平成 30 年度からの工学部と大学院理工学研究科の改組について文部科学省に申請を行いました。

AI や IoT の発達によって生活や産業構造が大きく変わるとともに、東日本大震災や関東東北豪雨の発生により社会インフラの改修や整備が強化される中、工学系人材をめぐる社会からのニーズも変化しつつあります。茨城大学工学部では、これらの変化を見据え、旧来の 8 学科体制を見直し、自動運転技術等の先進機械技術を扱う機械システム工学科、IoT 技術等の先端的な電気電子技術に取り組む電気電子システム工学科、新物質・新工業材料の開発に取り組む物質科学工学科、ビッグデータや情報セキュリティ等の高度情報技術に取り組む情報工学科、土木・建築両面に関わる人材を育てる都市システム工学科の 5 つの学科に再編することとし、平成 30 年度からの改組に向けて、先日文部科学省に申請を行いました。認められれば、工学部としては平成 17 年度以来 13 年ぶりの学科改組が実現します。

また、大学院理工学研究科博士前期課程の専攻についても、機械システム工学、電気電子システム工学、情報工学、都市システム工学の 4 専攻の設置の申請を行いました。これに従来の量子線科学専攻・理学専攻をあわせた 6 専攻の体制により、学部から大学院博士前期課程までの 6 年間の一貫的な教育を強化し、これからの社会のニーズに即した高度な専門技術者を育成していきます。



(左から) 三村信男学長と馬場充工学部長・理工学研究科長

◆ 茨城大も講座提供等で協力 「いばらき農業アカデミー」開講

農業の技術や経営について学ぶ「いばらき農業アカデミー」がこのほど開設されました。茨城大学農学部も参加機関として講座の提供などで協力しています。5月19日（金）に水戸市内で開講式が行われ、久留主 泰朗 学部長が出席しました。

いばらき農業アカデミーは、経営や生産技術に関する学びの場を産学官の連携で創出し、経営感覚に優れた農業経営者等を育成することを目的に開設されました。茨城大・筑波大・東京農業大といった大学のほか、茨城県立農業大学校や農業・食品産業技術総合研究機構、JA や民間企業などが講座のプログラムを提供します。

このうち、農学部は、食品衛生についての講座を秋に開講する予定です。今年度改組を行った農学部は、新設した食生命科学科を中心に、高いレベルの加工・管理技術を実践的に学ぶ環境を整備しつつあります。講座では、EU等で採用されている食品の安全管理指針である HACCP についての知識・技術も学ぶことができ、久留主学部長は「茨城県内における食品加工の技術を底上げしてグローバル市場への製品輸出を促進し、地域の農業を豊かにする一助になれば」と意気込んでいます。

開講式には橋本 昌 茨城県知事も出席し、「これまで複数の機関で行っていた農業者育成のプログラムを統一的に展開する取り組みだ。茨城大学などの大学や JA、企業などの各機関が提携しながら、若い人にとっても農業が魅力あるものにし、茨城の農業を日本一にしたい」と述べました。



「いばらき農業アカデミー」学長を務める
三輪 睿太郎 日本農学会長



参加機関の一員として茨城大学農学部の
久留主学部長（左奥）も登壇

◆ 学生による学外活動の発表イベント「はばたく！茨大生」を開催

5月31日、学生たちが地域や海外といった学外での活動を発表するイベント「はばたく！茨大生」を水戸キャンパスで開催しました。司会進行も学生たちが務め、約100人の参加者が発表に耳を傾け、ポスター発表をとおして交流を深めました。

このイベントは、本学の学生たちの多岐にわたる学外活動を発信し、相互に交流することを目的に昨年（2016年）12月に初めて開催され、今回が2回目です。年度がかわり、これから新しい活動を始めたいと考える1年生たちも多く来場しました。

主催した全学教育機構の木村競機構長は挨拶で、「ディプロマ・ポリシーで示した力を身につけるための『茨城大学コミットメント』を入学時に示したが、学外活動について発信するこういう場をつくり、参加することも教職員と学生のコミットメントの形だ。1年生のみなさんの多くは3年次の第3クォーター（iOPクォーター）で学外での学修に挑戦することになる。ここで先輩たちのいろんな活動に出会ってほしい」と述べました。

イベントの前半は8つの団体・個人がスライドを使って活動を紹介しました。思想家・岡倉天心ゆかりの北茨城市五浦地域の発信活動をしている人文学部2年の長永勇太さんは、「サークルに入って4年間活動するつもりでいたが、地域活動も大学生ならではと思い興味をもった」と自らの経験を振り返り、1年生たちに活動への参加を呼びかけました。また、外務省のプロジェクトで昨年アメリカ・コロラド州での研修活動に参加したチームは、日本に帰ってきて、キャンパス内で難民理解のためのワークショップなどを開催したことを紹介しました。

大洗町の「こどもの城」における造形ワークショップを続けている大学院教育学研究科修士2年の山田秀平さんは、実践活動を通じて得た知見やスキルについて、本学のディプロマ・ポリシーである「世界の俯瞰的能力」「専門分野の学力」「課題解決能力・コミュニケーション力」「社会人としての姿勢」「地域活性化志向」という5項目それぞれに関連付けながら紹介しました。山田さんは、「活動を始めた学部生時代にはこの5つの力が示されていなかったが、自分の経験を振り返ると自ずと身につけていたことに気づく」と語りました。

後半は会場を移し、ポスターを使った活動の発表と交流を行いました。会場には企業や自治体の関係者も訪れ、学生たちのプレゼンテーションに熱心に聞き入ったり、名刺を交換したりする姿も見られました。

今回のイベントについて全学教育機構の西川陽子副機構長は、「学生たちと教職員の協力でこうした場がくれたのは嬉しい。学生たちのパワーのすごさを感じられた」と語りました。



コミットメントブックを手に挨拶する
木村機構長



活動を紹介する学生たち（写真は岡倉天心・
五浦発信プロジェクトのメンバー）



教育学研究科の山田さんは5つの茨城大学型
基盤学力に関連づけて活動を振り返った



後半のポスター発表にも多くの参加者が
駆けつけた

◆ 茨城大学地球変動適応科学研究機関（ICAS）が国文学研究資料館と協定締結

茨城大学地球変動適応科学研究機関（ICAS）は、5月31日（水）、気候変動適応に向けた古典籍・古文書の活用を目的とした連携協定を人間文化研究機構国文学研究資料館と締結し、記念研究会を行いました。

両者は、歴史資料を活用した防災・気候変動適応に向けた研究および人材育成を共同で推進することとしています。ICASでは2006年から文系・理系の枠組みを超えて学部横断的に研究を行っているが、今後は国文学研究資料館と協働して歴史資料を読み解くことで、過去の災害状況やその対応を明らかにし、将来の防災や減災に役立てる「典籍防災学」を進めています。

三村信男茨城大学学長は、異なる学問分野が協力して社会の課題解決に当たることにより意欲を示し、谷川恵一国文学研究資料館副館長は、一般市民や理系分野の研究者による古典籍の活用が進むことに期待を表しました。協定締結式で挨拶した伊藤哲司 ICAS 機関長は、「災害は悲惨なものだが、一方で、異分野が協力して新たな研究を切り開く契機ともなった。ICASでは文理融合の研究を始めて10年になるが、分野を超えた協力関係を今後も維持してゆきたい」と述べました。

締結式の後には記念研究会が開かれ、国文学研究資料館の西村慎太郎准教授および茨城大学理学部の小荒井衛教授が古典籍から過去の災害状況を分析した研究を発表し、今後の共同研究への展望について議論を行いました。



谷川国文学研究資料館副館長（左）と伊藤 ICAS 機関長（右）



研究を発表する西村准教授

◆ 茨城大学名誉教授称号授与式・懇談会を開催

5月29日(月)、茨城大学名誉教授称号授与式が事務局棟第2会議室で行われ、各理事、各副学長、各学部長出席のもと、三村信男学長から新たに名誉教授となった方々に称号記が手渡されました。

授与式に続いて開かれた懇談会では、近況報告を交えながら終始和やかな雰囲気の中で歓談が行われました。



平成29年4月1日付けで本学名誉教授となった方は、次のとおりです。

(元 人文学部) 佐藤 和夫

(元 教育学部) 東條 吉邦、根本 博、本田 敏明、山本 勝博

(元 教育学研究科) 岸 良範

(元 理学部) 木村 眞

(元 工学部) 大貫 仁、岸 義樹、澁澤 進、杉田 龍二

(元 農学部) 渡部 信義

以上 12名(敬称略、元所属別・50音順)



称号授与式後の記念写真